



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2024.9.10 号

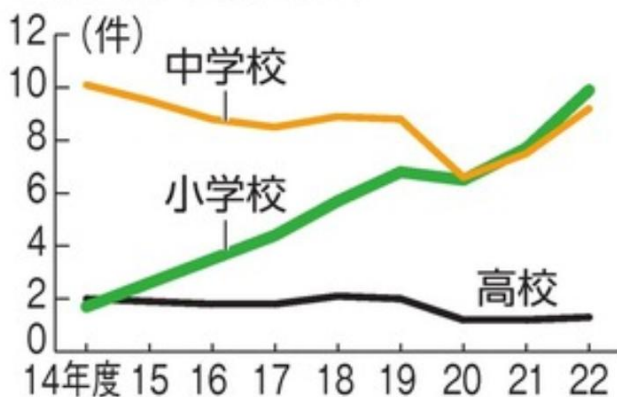
夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ (info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

小学生の暴力行為が増えている理由

文部科学省の統計より、小学生の暴力行為が急増中であることがわかりました。

暴力行為発生件数(千人当たり)
文部科学省の調査から



暴力行為の発生件数 (千人当たり)

10年前の2014年度は高校性よりも少なかったのですが、2022年度には中学生さえ抜きました。私が中学生だった1980年代は校内暴力の嵐が吹き荒れている頃で、廊下などで実際真剣な殴り合いが行われていました。卒業式の翌日には大きなマスクで顔を隠す先生もいました。

そんな中学生よりも、今の小学生は荒れているのでしょうか？

ただ何をもって「暴力行為」とみなすかは、各自治体の教育委員会によって見解がバラバラだそうです。最も多い新潟県では18.1件(1000名当たりの暴力行為の件数)ですが、最小の愛媛県は0.4件と40倍以上の差があります。そうしたバラツキを差し引いても、小学生の行動は

気になるところです。

ネットの記事によると、次のような傾向があるとのことでした。

- ・低学年ほどキレやすい
- ・ささいなことでキレやすい

「消しゴムをとった」「イスがはみでていた」といったことから起こる暴力。それは先生にも向けられます。その原因をある先生は、

- ・感情がコントロールできていない
- ・親が過剰に甘やかしている
- ・親からクレームが入るので厳しくできない

そのために増長していると取材に答えています。

しかし幼児教育の立場から見ると、ちょっと見解が違ってきます。あくまで私の感想に過ぎませんが、これは

乳児・幼児のやり直し

ではないかと思います。つまり、**遊びが足りないのか、あるいはことばの発達の問題**もあるかと思っています。

私たちの園でも、1歳児や2歳児にはひっかきやかみつきはよくあります。言葉でうまく伝えられず手が出る、感情が抑えられず手が出るといったところです。

遊びの経験も、けんかの経験も十分でないと、それをどこかで補わねばなりません。小学校でやり直しているのです。「小さなうちに小さく失敗」しておけば、問題も小さく収まるのに…。

ところでこんな本があります。「遊戯療法の世界」(東山紘久著、創元社)です。心を病んだ大人はカウンセリングを受けます。では子どもは？言葉による治療が難しいので、プレイ



セラピストが子どもと遊ぶのです。



この本の最初に牛の訓練士の話が出てきます。農耕機が普及していなかった頃、牛に^{すき}鋤を引かせました。

しかし言う事を聞かない暴れ牛もいます。そんな牛は訓練士のところに預けられます。

訓練士は、あらかじめ設定しておいた田んぼに牛を放します。牛は好き勝手暴れます。それを数日黙って見ています。やがて牛が訓練士を振り返るようになります。気にしだすのです。そのタイミングを逃さず、牛に鋤をつけます。

「やっぱりそうか！」とばかりに牛は暴れます。訓練士は黙って牛に従います。数時間もすると、牛が訓練士を振り返ります。そのときに「はい、まっすぐ、まっすぐ！」と話しかけると、牛は素直にまっすぐ歩くのだそうです。

プレイセラピストのマインドも似ているそうです。子どもを主体にして、その子の遊びの世界に従います。

小学1年生の女子。どもりが強く、集団で遊べません。強い内向性があります。放課後に部屋を決めて、月に1回、50分のプレイセラピーが始まります。

まずは信頼関係を築いていきます。やがて、決まった場所・決まった時間という枠の中では自由にふるまえることを確認し、遊びはどんどん発展していきます。

折り紙から始まり、お絵描き、かくれんぼ、授業ごっこ、買い物ごっこ、料理ごっこ…。女の子がプレイセラピストに命令します。

「あんた子ども。私お母さん。御馳走作るから、あんた遊んで来なさい。遠くへ遊びに行くのよ。うそつくの。近くだと言って遠くへ行くのよ」

遊びの中にさまざまな登場人物が現れ、その子の空想の中で空を飛んだり、消えたり、死んだり。そうかと思うと蘇生させたりします。空

想の中なので生き死にもその子どもの自由です。

1年間の遊びの中で、生と死の疑似体験をくり返し、やがて女の子は集団に帰っていきます。

人間には本来的に「攻撃性」があります。生きること自体、何かの命を奪うことの上に成り立つものです。そうした攻撃性をうまく発散させることが必要です。ゆがめられた攻撃性が内に向かうと引きこもるでしょう。外に向かえば非行になります。

子どもは遊びの世界で心を解き放ちます。満足いくまで「遊び込む」ことが大切です。遊戯療法では、何らかの理由で子ども同士すべきだ



った遊びの過程を、プレイセラピストを通してやり直すわけです。

遊びや空想の中で、攻撃性をうまく昇華できれば、それは性格に統合されていきます。意欲や勇気の源にもなるでしょう。

子ども自身が自由に発想して、発展させていける遊び場が必要です。しかしそれは今、難しくなっています。公園には多くの制約があります。ネットという刺激もあります。乳児・幼児期の遊びを豊かにすることで、小学校での暴力行為も減っていくのではないかと私は考えていますが、さていかがなものでしょうか… (終)